

# 2025年喫煙防止教育の効果に関するアンケート調査の結果について

山口県医師会

常任理事：河村一郎、岡 紳爾、理事：國近尚美

山口県医師会禁煙推進委員会

委員長：松永和人、委員：櫃本孝志、松岡 尚、久山彰一、前田和成、高濱佳奈

## はじめに

日本でも2018年に受動喫煙防止法が制定され、徐々に喫煙率は減ってきているが、諸外国と比較すると男性の喫煙率はまだまだ高い。女性の喫煙率もあまり減っておらず、20代、30代など若者の喫煙率が高齢者に比べて高い。喫煙はがんの発生のみならず、呼吸器などさまざまな臓器への影響も大きく、近年、COPD（慢性閉塞性肺疾患）などの慢性肺疾患への影響が問題となっている。県医師会では2020年に20代の人を対象として喫煙防止教育についてのアンケート調査を行い、喫煙防止教育がその後の喫煙防止に効果を上げていることを証明した。このたび5年ぶりに同様の調査を行ったので報告する。

## 対象及び方法

令和7年12月、某市役所に勤務する人、及び某大学、某高等専門学校（以下「高専」）に在籍する主に20代の人を対象として、各所に文書で許可を得たうえで匿名性を保ちつつWebによるアンケート調査を行った。280名の方から回答を得たが、5年前との比較をするために、20代204名の方を抽出して、統計学的解析を行った。統計解析には解析ソフトStatcel4を用いてマンホイットニー検定を行った。

## 結果

1) 性別は男性94名、女性108名、記載なし2名。年齢は20歳から29歳、平均24.1歳。所属は某市

役所152名（平均25.3歳）、某大学35名（平均20.6歳）、某高専17名（平均20.7歳）で各所の年齢分布は図1のようであった。

2) 現在、タバコを吸っていると答えた人22名（11%）、吸ったことがあるが今はやめていると答えた人10名（5%）、一度も吸ったことがないと答えた人172名（84%）で、性別で見ると、男性は、現在吸っている人19名（20%）、吸ったことがあるが今はやめている人10名（11%）、吸ったことがない人65名（69%）、女性は、現在吸っている人3名（3%）、吸ったことがない人105名（97%）で男性の方が吸っている人、吸ったことがある人が多かった。

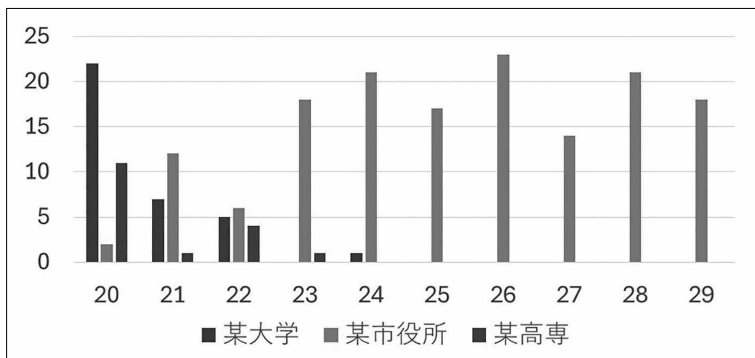


図1 所属別年齢分布 (n=204)

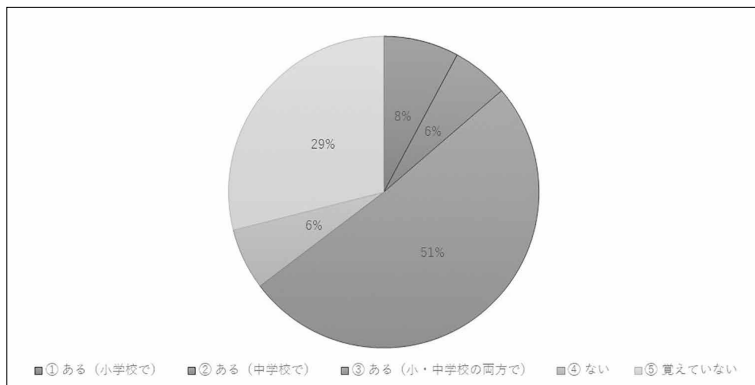


図2 喫煙防止教育の有無 (n=204)

- 3) 喫煙防止教育は受けたかどうか覚えていないという人が59名(29%)いたが、104名(51%)は小中学校両方で受けていたと答え、小学校で16名(8%)、中学校12名(6%)で、受けていないと答えた人は13名(6%)とごくわずかであった(図2)。喫煙防止教育を受けていた132名のうち喫煙歴がある人は21人(16%)、喫煙防止教育を受けていなかった13名で喫煙歴がある人は3人(23%)と喫煙防止教育を受けていた人では喫煙をしている人が少なかったが、統計学的な有意差はなかった。ただ、今回調査した中で、小中学校両方で受けた人ではより喫煙している人が少ない傾向があった(図3)。
- 4) 全体の回答者280名のうち、現在吸っている人は24名いたが、うち17名(71%)はやめたいと思っていると答えていた。吸ったことがあるが今はやめていると回答した人は13名いたが、やめた理由としては、体に合わなかった・美味しくなかったという人が4名、次いで家族の反対が2名であった。
- 5) たばこが健康に及ぼす影響として280人中最も多かったのが肺がんで274名、次いで妊娠に関連した異常(早産、低出生体重児)229名、気管支炎213名、喘息205名であった。胃潰瘍は64名(23%)と少なかった(図4)。
- 6) COPDについては、よく知っている人は280名中わずか23名(8%)で、全く知らない人が104名であり知らない人を合わせると205名(73%)であった。COPDがタバコによるものだと知らない人も209名(75%)と多かった。

ていた人の方がタバコを吸っている人が少ないという統計学的な有意差が出たが、今回、統計学的な有意差が出なかったのは喫煙防止教育を受けていない人が非常に少なかったからではないかと思われる。喫煙防止教育が特に小中学校両方でされている人が増えているのは非常に良いことだと思われる。喫煙者の率も前回の調査では現在も吸っている人15%、吸ったことがある人9%で、吸ったことがない人は76%であったが、それぞれ11%、5%と喫煙者は減っており、吸ったことがない人は84%と増えてきている。前回と今回では調査の対象者が異なるため一概に比較はできないが、前回と同じ所属場所で20歳代の人を対象として調査を行っており、5年前に比べて喫煙率は少し減っており、喫煙防止教育の効果はあるものと考えられた。今回の調査では、COPDの認識についても調査したが、20代の人にはまだまだCOPDについての認識が乏しく、タバコによるものだと知らない人が多い。今後10代、20代の人にもCOPDについてアピールしていく必要があると考えられた。

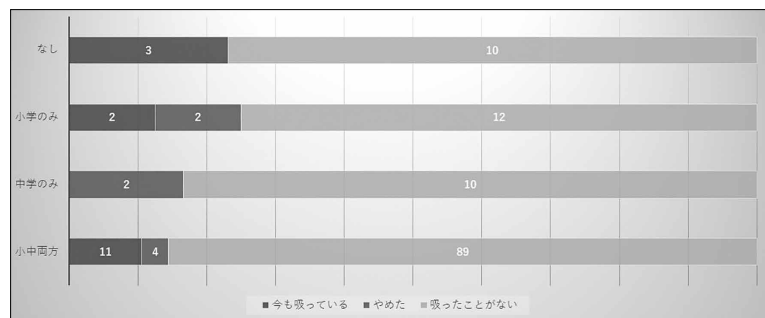


図3 喫煙状況と喫煙防止教育 (n=204)

考察

2020年に調査した結果では、喫煙防止教育を受けた人は47%で、受けたことがない人が21%であったが、2025年の調査では受けた人の率が65%に上がっており、受けたことがない人は6%になっていた。前回の調査では喫煙防止教育を受け

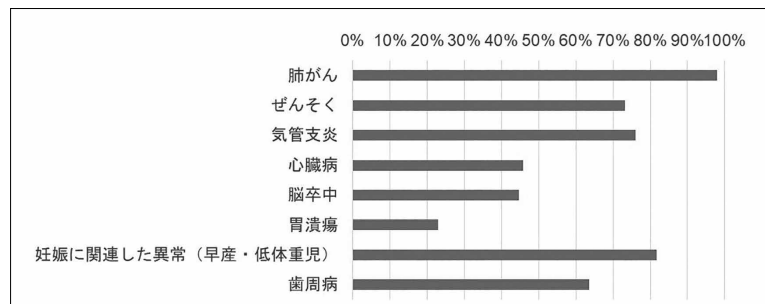


図4 タバコが健康に影響を及ぼしているもの (n=280)